

<仮訳>

ジョイント・フォーラムが「金融規制の業態別特徴及び範囲のレビュー」を公表

2010年1月8日

ジョイント・フォーラムは、本日、「金融規制の業態別特徴及び範囲のレビュー～重要な論点と提言」(原題: Review of the Differentiated Nature and Scope of Financial Regulation)と題する報告書を公表した。このレビューは、金融安定理事会(FSB)を通じ、G20により要請されたものである。本報告書は、国際的な銀行、証券、保険セクターに対する金融規制の業態別特徴から生じる重要な論点を分析している。また、報告書は、規制されていない若しくは規制の緩やかな特定の事業体や活動について特に焦点を当て、様々な金融活動に関する金融規制の範囲から生じるギャップにも対応している。レビューの目的は、現在の規制の枠組みではシステムミック・リスクが完全には捉えきれない可能性のある分野を特定し、金融システムの規制強化に必要な改善点について提言を行うことである。

報告書の提言は5つの具体的な分野に対応している:

- 類似の金融商品に関する問題を含む、3つのセクター間の規制上の相違から生じる問題点
- 規制対象外の事業体に焦点を当てた、金融グループ監督・規制
- 様々なタイプの住宅ローン供給業者が一貫して適用する引受審査の最低基準に焦点を当てた、住宅ローンの組成
- 特にシステムミック・リスクを有するヘッジファンド
- クレジット・デフォルト・スワップや金融保証保険に焦点を当てた、信用リスク移転

ジョイント・フォーラムの議長(2009年末まで)及び米国通貨監督庁長官であるジョン・C・デューガン(John C. Dugan)氏は、本日、以下のように発言した。「本報告書は、危機を通じて明らかとなった特定の規制上のギャップに焦点を当てている。本報告書においては、一旦実施されれば、ギャップを低減し、金融システムの規制を強化するだろういくつかの重要な提言が行われている。規制の一貫性や、類似の活動に対する類似の監督は、システムミック・リスクの有効な監視における重要な原則である。本報告書は、金融活動や金融機関に対する監督の一層の収斂につながる、今後の重要な取組みの土台となるものである。」